

第24回日本バイオインフォマティクス学会評議員会議事録

日時：平成21年3月26日15:00-17:00

場所：東京大学医科学研究所 新病院棟8階会議室

出席者：後藤（会長）、松田（副会長）、秋山、有田、白井、本野（幹事・評議員）、深海、坊農、水口、水島、江口、木下賢吾、榊原、藤、矢田、奥村、金谷、木下聖子、須山、富井、野口（評議員）、中井、平川（幹事）、渋谷（幹事、議事録）、鈴木（事務局）

1. 日本バイオインフォマティクス学会のホームページについて

日本バイオインフォマティクス学会のホームページについて平川幹事より報告があった。ホームページ上では、学会の詳しい内容の説明が初期の趣意書で代替されており、現況は変化している可能性があるため、改善が好ましいのではないか、という報告があり、それについて今後議論をしていくことになった。

2. バイオインフォマティクス技術者認定試験について

バイオインフォマティクス技術者認定試験について秋山幹事より報告があった。学会からは、この認定試験に20万円の支出を行っている。この会計報告の承認がなされた。また、関連して秋山幹事よりこの認定試験委員会の委員長を今後学会として正式に選んでどうか、という提案がされ、議論がされた。その結果、認定試験委員会委員長は、日本バイオインフォマティクス学会認定試験担当幹事として会長が任命することになった。

3. 年会開催について

松田副会長より、今年度年会に関する報告があった。参加者が261人と盛況であったこともあり、収支決算は約31万円の黒字となった。この会計について承認された。

4. GIW2009について

榊原評議員より、GIW2009の体制および会計計画に関する報告があった。今回はパシフィコ横浜で行う予定である。例年GIWでは学生旅費の補助をJSBiから行っているが、本年度も行うことになった。また、学会の総会をGIWと並行して開催すること、および学生会員のGIW参加費用の補助等に関して、今後議論していくことになった。

5. 今年度会計中間報告

鈴木（事務局）より、今年度の会計の中間報告があった。今年度は、年会の繰越等が予想より多く、来年度への繰越が例年より多くなる見込み。なお、今年度は年会の運営にあたって若干の黒字が出ていたが、このような残金が出た場合の扱いに関して議論がなされた。現状では学会に戻して管理しており、それで問題ないと思われるが、今後さらに検討していくことになった。

6. 研究会・地域部会活動報告

鈴木（事務局）より、研究会・地域部会活動に関する報告が行われた。また、藤評議員より、九州部会の活動に関して報告があった。これらの研究会、地域部会に関しては、今後改革を行い、提案型の研究会を検討していくことになった。

7. 第二回台湾日本若手科学者会議について

有田委員より、第二回台湾日本若手科学者会議に関する報告がなされた。JSBiからは学生の参加者3名分の旅費負担額相当の援助を行っている。

8. 共同利用要望書について

鈴木（事務局）より、本学会に要望のあった共同利用要望書について報告があった。大阪大学蛋白質研究所、東京大学医科学研究所、東京医科歯科大学難治疾患研究所に提出している。

9. ニュースレターについて

白井幹事よりニュースレターについて報告があった。

10. AASBi 代議員について

後藤会長より、AASBi 代議員に関して報告があった。今後、代議員の選出方法について議論が行われ、今後代議員に選出する者は、少なくとも1人は JSBi 幹事に任命することになった。また、今後の代議員の選出に関しては今後議論を行っていくことになった。

12. 合同研究会、総会について

次年度の合同研究会、総会の開催について議論がなされ、総会は12月に年会とまとめて開催する方向で今後検討していくことになった。今年度の会計報告および次年度の予算案については、5月頃に開催予定の評議委員会で仮承認を得ることを予定している。

13. 入門書について

藤評議員より、中高生などのビギナーに対する啓蒙書を学会が出せるかどうかこれまで検討してきたが、現段階では難しい、との報告があった。

14. 平成21年度会長選出選挙

来年度の会長選出選挙が行われ、後藤現会長が来年度の会長として再任された。

以上